

未来につながる魅力あるブドウ産地づくり

県北農林事務所経営・普及部門

常陸太田市は、ブドウを中心とした直売型果樹産地ですが、生産者の高齢化が進み、産地規模も小さくなってきました。そこで、果樹産地の維持発展対策を話し合うため、ブドウ、ナシ、柿の各生産部会、関係機関で協議会を立ち上げ、産地の現況と将来の方針などを協議し、常陸太田市果樹産地構造改革計画を策定しました。

普及センターでは、本計画に基づき地域オリジナル品種「常陸青龍」を核としたブランド化や販売力向上、鳥獣害対策など地域の課題に対応した普及活動を常陸太田ぶどう部会対象に進めています。

常陸太田ぶどう部会の現状と意向

常陸太田市果樹産地構造改革計画を作ったことで、産地の現況と10年後の目指すべき姿が明確化し、今後取り組むべき内容を示すことができました。

計画は、①経営安定や新たな担い手確保に向けた「担い手育成戦略」②多品種化と高品質な果実生産に取り組む「生産戦略」③おもてなしの心でお客様目線を大切にした「販売戦略」の3つの柱で構成されています。

また、国の果樹経営支援対策事業を活用し、改植や園地整備ができるようになりました。



「常陸青龍」果実品評会
ぶどう部会役員、関係機関が品質評価を行います。

販売力向上に向けて

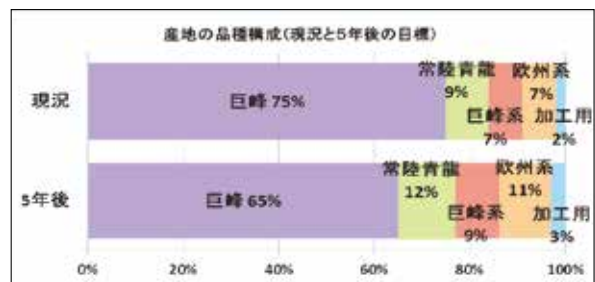
常陸太田のブドウファンを増やすため、地元幼稚園児親子をブドウ園に招待し、ブドウ狩りを楽しんでもらう取組を実施しました。

また、常陸太田の果樹園を紹介する情報誌の作成を支援し、果樹園情報誌「O-taful」（食と農のチャレンジ事業活用）が完成しました。

若手ブドウ農家と地元飲食店が協力して「ブドウフェス」を実施し、地元ブドウのオリジナル料理を提供しました。

ブドウ産地の現況と意向

項目	平成25年	5年後	10年後
経営体数	58戸	52戸	45戸
経営面積	29.8ha	28.1ha	26.7ha
平均年齢	64.8歳	68.0歳	70.8歳



「常陸青龍」の高品質化と生産拡大

常陸太田ぶどう部会では、地域オリジナル品種「常陸青龍」のブランド化をすすめています。

品質の高い「常陸青龍」を安定生産するため、花切りから着果管理まで講習会を実施するとともに、果実品評会、目揃会を開催し、生産意欲の向上に努めました。

また、「常陸青龍」生産面積拡大のため、接木講習会を実施し、部会による苗木増殖を支援した結果、「常陸青龍」の栽培面積は4年間で2haから2.8haに増えました。



果樹園情報誌「O-taful」
ぶどう部会のHPからも電子書籍が閲覧できます。